

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

2011年7月25日 VOL.34 第258号 定価550円
発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp

2011年
夏号



緊急救援 救える命があればどこへでも

東日本大震災医療支援活動

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://amda-imic.com/>

岩手県立大槌病院岩田院長より、AMDAの皆様宛てのお礼状が届きましたので転載します

東日本大震災による大津波のため、大槌町の中心部はほぼ壊滅状態となり大槌病院は2階上部まで浸水し、また、6軒の診療所もすべて全壊したため大槌町の医療機能は麻痺状態となり、途方に暮れておりました。そういった時にAMDAのスタッフの力強いご支援を受けたことは誠にありがたく大槌病院の再建に大いなる力となりました。

おかげさまで、4月25日に仮設診療所の開設に漕ぎつけることができ、さらに6月末には、本格的な仮設診療所で診療ができそうです。AMDAの方々にはいろいろお世話になりました。

皆様のお心遣いに感謝申し上げます。お礼のご挨拶と致します。



6月27日新たな建物で診療再開した岩手県立大槌病院内部 地元スタッフと高岡邦子医師 (左/AMDA顧問)



自営クリニックの窓から見る迫りくる津波。この後、患者さん共々屋上に避難しヘリコプターで救助された植田医師撮影 (大槌町)

AMDAの緊急医療支援時からともに活動し、緊急医療チームの引き揚げ後は、AMDA鍼灸巡回治療を担う佐々木賀奈子さん。津波でクリニック・自宅を流されたひとりです。

鍼治療に託す思い

心身共に健康をサポートすることが、私の鍼治療の原点であります。東洋医学、鍼灸治療は、嫌煙されたり、対処療法にすぎないと思われがちですが、古来からの民間療法であり、日常的に施されていた療法でもあります。しかしながら、現段階では保険適用外とみなされ、受診料が高額になってしまいます。

私の住む地域では、県立病院が1か所、個人開業医が数か所ありますが、高齢化の進むわが町は入院施設が少ないのです。結局隣町の病院まで車で40分程かけて通院しなければなりません。さらに緊急の場合には、120キロ離れた内陸の病院に転院せざるを得ないのです。このような状況もあり、私は鍼灸治療の保険適用を推進し、少しでも多くの方々に治療を施したいと



施術中の佐々木鍼灸師

考えています。人間の身体と心は一体であります。陰陽のバランスがとれていると、心身ともに楽になり、四季を通じて健康な免疫力のある身体になります。この活動を継続することで、地方の医療改善、病気の予防とすることを目指しています。何より鍼治療の魅力は、患者さんの身体に直接触れ、手当てできることです。会話することで身体の痛みだけでなく、メンタル面でのサポートもできます。痛みが緩和できた時の患者さんの笑顔が、私の心の栄養であり、仕事の醍醐味です。

岩手県上閉伊郡大槌町桜木町自治会長：中村盛観さんからの手紙

被災地のコミュニティを支える自治会組織。AMDAの緊急支援活動に尽力いただいた地元の自治会長中村さんから6月中旬に届いた手紙を紹介します。

拝啓 一足飛びに真夏日の続く今日この頃、ときおり流れる風に貝の風鈴がカラコロンとかろやかな音を奏でております。

3月11日14:40頃、私は自治会の年度末事務処理のために桜木町保健福祉会館に出かけ、妻の美弥子は自宅にいました。私は地震直後、桜木町保健福祉会館が津波避難場所になっていたため、ここに一次避難、その後携帯電話が繋がらないので、裏山の藪を漕いで山の上にある林道に出て、災害対策本部がある「城山中央公民館」に向かいました。林道から見ると、既に大槌町市街地は津波で瓦礫の原と変わり果てておりました。



避難所で伝統芸能を披露する大槌高校生ら 6月

公民館には、対策本部の看板はあるものの、人がごった返していました。町長以下数十人の役場職員が津波に呑まれた後で体制が組めず、烏合の衆状態であったと後に聞きました。一方、地震津波により瓦礫が燃えて火勢が強まり、油タンクに火が移って爆発、山林にも延焼しました。私は、燃えていない場所を選びながら、山道を元の桜木町保健福祉会館に戻り、会館の裏山にある民家の軒先で夜中を迎えましたが、未明2時頃に再び山林火災に追われ、福祉会館2階の和室に退避。夜明けを待って、消防団の指示により、桜木町住民約100名を誘導して「寺野弓道場避難所」に入りました。別の場所に避難していた桜木町住民も合流し、さらに海岸近くの栄町・須賀町・花輪田地区住民なども加わって、一時は総勢600人が弓道場に押しかけましたが、避難者名簿に記帳して一呼

吸した後、余震が収まるに従い、三々五々、津波被害のない親戚などを頼りに移動していきました。

私は桜木町自治会長をしている関係で、自治会役員数人と、手薄になっている行政を手伝う形で、毎日、避難者の入退出者数の把握、滞在所の割り付け、食事の準備を行いました。また、外部との連絡調整や、マスコミ対応、避難者の意見集約、避難所運営のルール作りも引き受け、みんなに何かの仕事を担当してもらい、互いに助け合い自主的に運営できる雰囲気作りに努めました。

自宅は床上170cmの浸水で、家財道具の多くを処分しました。妻が毎日通って泥で汚れた床や壁、衣類、食器類を洗浄し、泥との格闘でした。おかげで、約2ヶ月後の5月10日には何とか避難所を退出することができました。リビングにやっと夫婦が寝泊まりできる空間が取れるようになりましたので、自宅に戻って自力による復活を目指しているところであります。

現在桜木町自治会員は殆ど自宅に戻り、避難所に残るのは50名弱です。一方、各地の避難所から戻ってきた自宅避難者は、目下、桜木町で630名あまり、一部は町内から他県・町に転居されているようです。

大槌町にはまだ行方不明者が相当数いるため、慎重に遺体捜索をしながら瓦礫処理しております。それでも、市街地の瓦礫はかなり片付いてきました。河川周辺の瓦礫の山も徐々に片付いて、一時の殺伐とした様相はなくなってきました。全国から驚くほど大勢集まって下さったボランティアの皆さんの活動の広がり、自衛隊の頼もしい支援活動が強く印象に残りました。

ところで、ヘドロを巻き込んだ海水が自宅周辺に流れ込んできた影響で、庭の雑木などが枯れてきましたが、樹齢20年ほどの藤の木は元気で、先日、



中村さん（右）と松原さん

なんと！健気にも淡い紫色の花を咲かせたではありませんか。妻は「涙が出るほどうれしい！」と感動しておりました。「私達はこの“庭の藤の木”から元気をもらって災害を乗り越えて行きたい」と考えております。また、藤の花の上に取り付けていた野鳥の巣箱に、先月「シジュウカラ」が巣籠り抱卵中でした。一週間ほど前にヒナが巣立っていきました。人間の都合とは関係なく、地球、動・植物の営みがそれぞれ何事もなかったように推移していきました。

皆様には、この間、物心両面のご激励を頂き、本当にありがとうございました。初対面の方や親切な方々からいろいろな支援品を頂き、日本人の優しさを感じました。自治会のデータも復旧し、少しずつ元気が出てまいりました。これも皆さまのお蔭と感謝しながら、今後も生きていきたいと思っております。本当にありがとうございました。敬具

AMDA 大槌クラブ設立



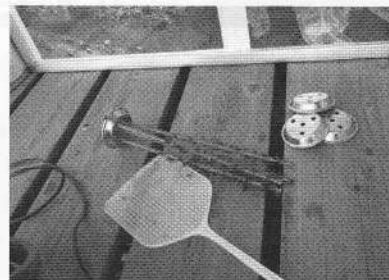
AMDAの活動拠点のひとつ岩手県上閉伊郡大槌町でAMDA大槌クラブが結成されました。

6月24日、設立の会が開かれ、「ひとつになっぺあ！大槌クラブ」を合言葉に、地域での活動を始めていくこととなります。

■ AMDA の現在の活動

梅雨に入った三陸沿岸被災地では、温度の上昇とともに、富栄養化したハエの大型化と異常繁殖が顕著になり、ハエ取り紙や防虫剤の

要望が寄せられるようになりました。AMDA ではこれに応え、6月下旬大槌町と南三陸町にリボンハエ取り 1550 個、防虫剤や虫よけネット、蚊取り線香など 200 個、ハエたたき 100 個などを配りました。



再開した仮設公立志津川病院 (宮城県南三陸町)



7月10日から再度大槌町に入った高橋徳医師(左)と佐々木賀奈子さんによる避難所での鍼灸治療



ビタミン剤を配る高岡医師



AMDA 大槌クラブの高校生のみなさん

AMDA では現在、巡回鍼灸治療、再開を果たした地元の医療機関への支援などの医療支援と、スポーツ交流など心の支援、そして被災地の高校生らを対象とする AMDA 東日本大震災国際奨学金の大きく分けて 3 つの分野の活動を継続実施しています。7月18日から、宮城県南三陸町の公立志津川病院の支援に看護師、心理士が再び入ることを皮切りに、岩手県大槌町の県立大槌病院にも医療専門家の派遣が予定されています。医療と心の絆づくりの両面からの支援を継続していきます。



再開準備中の植田医院

甘い物の持つチカラ

パティスリーシエルブルー 伊藤 嘉浩



「仲間と共にケーキを配る筆者(右)」

今回、私は仲間のパティシエ1人と義父、知人の4名で4月10日～13日までの4日間、岩手県釜石市や大槌町などの避難所約10数か所へAMDAさんのご協力のもと行ってきました。

私は大学時代、神戸で阪神大震災を、東京での修行から戻った実家の岡山県玉野市で台風による高潮を経験しました。震災の時も高潮で店が海水に浸かり、製菓用機材の全てを失って絶望的な気持ちになった時も周りの方々

からたくさんの優しさをいただき、中でも実際に訪ねて来てくれた事に心が温くなった気持ちを今も覚えています。そこで実際に自分が行く事で必ず伝えられる気持ちがあると信じて行動を起こした事が、今回のきっかけとなりました。幸いな事に私の仕事は甘い物を作り出す菓子職人ですので、どうせ行くなら喜んで下さる物という事で、生クリームたっぷりのイチゴが載ったロールケーキを約2,500食、有志の仲間から集まった焼き菓子約6,000個等を持って現地へと入りました。

活動を通じて、皆さんの笑顔に触れ改めて自分たちの仕事の素晴らしさ、人の心が持つ綺麗な部分など普段の中ではなかなか見えにくい事を再認識させていただいた大変貴重な経験になりました。

多言語発信— AMDA グループ協力

AMDA のホームページでは従来、日・英・仏の3言語発信でしたが、東日本大震災での活動から、AMDA 国際医情報センターの協力により活動報告の抜粋を14の言語で掲載しています。
<http://www.amdainternational.com/>

国際医療情報センターは今年設立20周年を迎え、5月21日に記念の集いが東京で開かれました。第2部では東日本大震災緊急医療支援活動の報告を、第2回市民参加型人道支援外交円卓会議として行いました。

AMDA 東日本大震災国際奨学金は、将来医療職を目指す被災地の学生を対象に、月額 15,000 円を支給する返済義務のない奨学金です。当面 AMDA が緊急医療活動を行った地域の学校 6 校を対象に 3 年間実施します。奨学生の選考はその在席校で行われます。すでに奨学金を受け取った生徒たちから、応募の動機や将来への希望を綴った作文が AMDA によせられました。その中からいくつかをご紹介します。近い将来、日本を背負って立つような人材が東北の地から輩出することを確信します。

◆この震災を通して

私は、将来、医師になりたいと考えています。今回の東日本大震災で、私の住む岩手県大槌町は、津波の被害で町のほとんどが、全て流され、壊滅状態となりました。自宅も全壊、父の努めている病院ももう使うことはできません。

そこで目にしたのが、いち早く避難所で病院を再開し、患者さんのための薬をかき集め治療にあたる父の姿でした。その姿を見て、より一層、医師になりたいという気持ちが強くなりました。

医師には、医療技術が大切だということはもちろんですが、私は、それ以上に、人を思いやる気持ち、人と人のかかわり合いが大切であると、考えています。そのような医師になれるように、日々努力を惜みず、がんばっていきたいと思います。そこで、この奨学金に応募しました。(2年生)

◆私の夢

私は中学校の時に県の医療関係者不足のニュースに興味を持ちました。私が住んでいた大槌という町でも、医師不足が問題になっていたのも、身近なニュースでもありました。そこで、私は医療や健康に対する知識を高め、医師を求めるのではなく、健康な身体をつくるためのネットワークを広げることならできると思い、看護師になりたいと思いました。

また、私は今回の震災で、大好きな祖父を失いました。祖父は、身体が弱く、病院に通うことが多い人だったので、私は祖父と「絶対看護師になる。」と約束をしていました。いつか私が看護師になって働く姿を祖父に見せることはできないけれど、一生懸命勉強を

して、看護師になって、一人でも多くの命を救う為に働ければいいなと思います。今回の震災では、本当にたくさんの方々に助けてもらいました。ご支援ありがとうございます。(2年生)

◆奨学金をいただいて

私が奨学金に応募した理由は、将来大学に入るためのお金が必要だと考えたからです。

私の父は二年前から右半身がまひの状態になり、車いすでの生活となりました。月に一度理学療法のリハビリを受けています。私は何度もそのリハビリを見ました。理学療法士は、障害者の体の状態をよくするだけでなく会話をすることで心の状態もよくしていました。障害者に希望を与えることができるこの仕事を自分もしたいと思いました。自分一人で立つこともできなかった父は、今ではつえを使い人が支えてあげることで歩くこともできています。理学療法士のおかげで父だけでなく私も含め家族みんなが笑顔になりました。絶対に簡単な仕事ではないと思います。AMDA さんからいただいた奨学金で良い大学に入り、たくさんの方の役に立てるように頑張ります。(2年生)

◆生活を改めて

もし、津波がきていなければ僕は今まで通り普通に生活していました。その「普通」というのは勉強を含めての普通です。

ですが、今までとはまったく違う環境に立ち、新しい生活が始まりました。勉強道具などの道具が不足していたときに奨学金をもらい本当に嬉しかったです。そして、そのお金をいただいたのですからこれまでの生活を改めなけれ



避難所体育館にかかげられた作品

ばなりません。勉強、部活、家事などを今まで以上に頑張り、大学進学を目指していきます。

今回の奨学金に僕はとても助けられています。生活面だけでなく気持ちの部分も助けていただきました。支えてくださった人達のためにも勉強時間の工夫をし、より効率のよい学習をし、部活は自主練習の質を高めて文武両道をしていきたいと思っています。

今回は本当にありがとうございます。将来の夢に向かって頑張っていきたいです。(3年生)

◆将来の夢と希望の奨学金

私の将来の夢は医療従事者となってたくさんの方の役に立つことです。

私が住んでいる岩手県では医師不足が深刻な問題となっているので、その中で医師として岩手県の方の為に働きたいと思っています。

今回の震災で私は家が津波によって流されてしまい、避難所で約 2 カ月間生活しました。小さな町なのにたくさんの方の高齢者が自分が飲んでいる薬を流されてしまって困っている時に他の地域から来た医師団の人達が無償で診療していたり、相談に乗ってあげているのを見て自分も医師になってたくさんの方々に恩返しをしたいと考えました。ですが、医大に進むのにはたくさんのお金がかかってしまうので、この奨学金で学費の一部をまかなって、

なるべく早く医師の資格を取り、たくさんの人たちに助けてもらった事を忘れずに医師として活躍したいと思います。(1年生)

◆将来の夢の希望の進路

自分は中学校三年生の頃から首の病気を持っています。もう一年もたちますが慣れることはないでしょう。そんな中で自分はたくさんの人々に会うことが出来ました。首専門の病院の先生方や首や腰のけがや病気のために入院している人々、自分はこの病気の事でいろいろな人達に会い、話し、勇気や一生懸命頑張る事の大切さ、人とのふれあい等を学ぶことができました。自分だけが苦しんでいるのではない、もっともっとつらい人もいる現在を知りました。だからこそ自分がそんな人達の助けになりたい。力になることがしたいと考えたから、今、自信を持って医者になりたいと思うことができます。

自分は将来医者になりたいです。そして自分と同じように苦しんでいる人を助けたいと思っています。それは日本だけでなく世界にも向けていきたいと考えています。(1年生)

◆応募した理由と将来の希望

私は4才の時に父を亡くしました。突然の出来事でした。その時から家族はもちろんですがいろいろな人達に助けてもらって大きくなってきました。

そして高校受験です。自分の希望する進路に向かって頑張ろうと思った時

にこの東日本大震災が起こりました。でも、この災害があつてこのような奨学金がある事を知りました。姉や兄も他の奨学金をお借りして自分の希望する道を頑張って進んでいます。私も母の負担を少しでも減らしてあげたいと思い奨学金に応募しました。

将来を考えた時、今まで助けていただいた人達を今度は助ける側の仕事に就きたいと思いました。人と関わる事が好きなので看護師を目指します。今回の震災でいろいろな思いをした人達の手助けが出来るように地元を元気出来るように頑張ります。(1年生)

◆夢と希望を

3月11日に発生した東日本大震災の大津波により、私の家は全壊・流出しました。思い出の品々、教科書や参考書の全てがなくなりました。これから先どうしたらいいのか途方に暮れました。被災して暫くは釜石の小川体育館で生活しました。避難所にAMDAの医療チームの方々が応援に来て下さり、体調を崩したお年寄りや子ども達がほっと安心してたのを覚えています。実際、私も2度も体調を崩し熱を上げた時、私が寝ている所まで診察しに来てくれました。AMDAの支援のお陰でこれから先への希望が持てました。

私は将来看護師になりたいとずっと思っていました。今回の体験でさらにその気持ちが強くなりました。医療チームの働く姿を見て人々に安心と希望を与える仕事だと感じました。私も将来看護師になり地域に貢献できる人



間になりたいと思いました。そのためにも勉強に励みます。ありがとうございました。(3年生)

◆奨学金をもらうにあたり

私は東日本大震災の折、家が大規模半壊になり両親も津波で失いました。母は見つかったのですが父は未だに行方不明です。震災前から、進路について悩んでいました。自分の好きな道か薬剤師になるかです。震災を体験し、人を助けることがしたいと思い薬剤師を目指すことを決めました。今、兄弟と私を祖父母が支えてくれるので私は学校に行くことができます。また、たくさんの方の支援を受け、そんな人々にあまり負担をかけず、自分なりに恩を返していきたいと思い、この奨学金に応募しました。生前母に一生懸命自分の決めた道を進めと言われました。母の希望を叶えるためにも私は勉学にはげみ、この体験をプラスに生かしていこうと思います。ご支援して下さる皆様の支援を生かしていくためにこれからがんばっていきます。このたびは、ご支援本当にありがとうございます。(3年生)



「AMDA 東日本大震災国際奨学金」の設立

AMDAが受け入れたマレーシア、タイ、韓国、インドネシアの団体と、大槌高校避難所で3月29日国際会議を開催。「AMDA 東日本大震災国際奨学金」の設立を決定した。

AMDA東日本大震災国際奨学金



2011AMDA モンゴル国眼科医療奉仕検眼技術セミナー

検眼師養成セミナーと一般市民への視力検査啓発と小中学生への適切な眼鏡の無償提供

(公社)日本眼鏡技術者協会 内田 豪

6月14日から6月18日に行われたウランバートルにおいて眼鏡技術研のセミナーがAMDAとモンゴル眼科協会共同主催で行われモンゴル全土から120名が参加した。

内容は眼科協会会長ブルガン医師から子供の眼鏡調整に関して注意事項を解説して欲しいとの要望であった。2日間の座学に続き2日の実技講習、最終日は講演会というスケジュールである。今回の研修は眼鏡の無償提供を行うことも目的になっている。費用は岡山の芳田小学校が募金活動を行った。また眼科協会長、検眼師、双方意見を調整し協力して眼鏡専門学校設立を目指しているため、モンゴルの文部省や日本大使館などでの意見打診、陳情にも同行した。先般、同国からブルガン先生はじめ3名が来日したが、限られた日程でも東京と岡山の眼鏡専門学校を見学した成果は非常に大きいと実感した。

今回で2回目になるモンゴル国での眼鏡技術研修、最終日に空港で先生方から労いの言葉と、「ここまで研修が大きくなるとは自分でも信じられない」、「眼鏡学校設立時には必ずモンゴルに来て欲しい」との有り難い言葉を頂戴した。



セミナー参加者に講義をおこなう筆者

モンゴルでは眼科協会と眼鏡業界が意見を共有して国民のために正しい眼鏡を提供できるよう、教育システムの構築と同時に眼鏡学校の設立整備を願っている。想像を超えたスピードで展開しているモンゴルの眼鏡関連教育環境、専門学校設立と関連法規の確立を願ってやまない。

AMDAの緊急医療支援と被災者の絆—ハイチより

2010年1月に発生したハイチ大地震で片足を失い、AMDAの支援事業で義足を得て、2011年1月にAMDAの招聘により阪神大震災の被災者の方々等との交流を体験した18歳ハイチ人女子学生ガエル・エズナールさんからの手紙を紹介します。

皆さま、こんにちは。

私を支え、勇気づけて下さった皆さま一人一人に、お礼を申し上げます。本当にありがとうございます。日本では、ハイチにいる時より幸せでした。大勢の方が私を手助けして下さいましたからです。

ハイチは、障害者にとってはとても住みにくい所です。誰も手助けしてくれませんか。神戸に行った時、1995年1月15日の大地震の後遺症に苦しむ多くの方々とお会いし、共感し合い、たくさんの精神的な支えをいただいたことを思い出します。私にとっては貴重な経験でした。なぜなら、今、私はより良い未来を信じることができるからです。本当にありがとうございます。心から感謝しています。またいつか皆さまにお会いできることを夢見ています。毎日皆さまのためにお祈りしています。「皆さまに神様のお恵みがありますように」と。

足を切断する前と後では大きな違いがあります。義足を使っていると、たくさん歩き過ぎた時は息が止まりそうになります。



報告記者会見を終え緊張がほぐれたガエルさん(中央)と八尾義肢装具士(左)、菅波代表 1月15日 岡山

最後に、本当に親切なNGOであるAMDAを通じて、私の人生にこのような素晴らしい機会を作って下さった皆さまに、心からお礼を申し上げます。本当に幸せに思います。そして、いつの日か日本の大学に行きたいと願っています。

そして、今日(2011年3月11日)起こった津波で亡くなられた方々に、心からお悔やみを申し上げます。

2011年度 AMDA 神奈川支部定期総会

(5月29日、大和市の小林国際クリニックにて)

AMDA 神奈川支部 副代表 松本 哲雄

◆2010年度事業報告

- ①：バンコクのチュラロンコン大学女子学生2名に1名当たり6万バーツ(約17万円)を実習先のプミポン空軍大学病院で贈呈。小林代表・松本副代表・河野参加。
- ②：支部が推薦した海外技術研修員パッチャリー(バンコク総合病院日本人病棟看護師)来日。10月まで日本語研修、以降大和市立病院で研修。研修経験者はこれで10名になりました。3月15日は大震災余震の可能性があり修了式は中止、証書と記念品・地球メッセージ委嘱状は宿舍の研修センターで渡されました。

◆2011年度役員(任期2年)

代表：小林 米幸
副代表：松本 哲雄・篠原真理子・柘植 靖子
会 計：岩淵 満江
会計監査：武井 紀子

◆2011年度事業計画

- ①：バンコクの女子学生2名に各6万バーツ研修費贈呈。
- ②：タイ看護師を海外技術研修員に推薦。研修員経験者2名が被災地岩手県に入りAMDAと共に活動。「研修員がなぜタイ人ばかりなのか」という疑問に対して明確な回答になりました。
- ③：ネパールAMDA病院付属学校の援助については要請があり次第検討。

2011年4月～6月の動き

<p><講演> 4月8日 4月19日 5月3日 5月8日 5月10日 5月11日 5月12日 5月13日 5月15日 5月28日 5月29日 6月3日 6月10日 6月14日 6月16日 6月17日 6月18日 6月22日 6月23日 6月24日 6月25日 6月25日 6月28日 6月30日</p>	<p>AMDAの活動を聞く会 東日本大震災復興支援セミナー 大まんだら開帳/東日本大震災の救援活動について 長泉寺本尊薬師如来御法楽「万灯万華供養法会本尊祭」結願日 記念講演 AMDA代表菅波茂先生にお話を聞く会/東日本大震災での活動について 和気町立志式/AMDAの人道支援活動 平成23年度第1回商工会青年部研修会/東日本大震災でのAMDAの活動 東日本大震災緊急支援活動報告会 講座「つなげていこう助け合い わがまちの防災」 修了生による講演会 東日本大震災の支援活動に参加して 岡山NPOセンター総会後の定例会/東日本大震災の支援と今後について 高校生への人権教育/AMDAの国際人道支援と東日本大震災での活動 企業勉強会/AMDAの活動を通して人材育成を考える 敬老会勉強会/AMDAの活動 東日本大震災 中学校PTA講演会 八浜長寿学級勉強会 小学校PTA講演会 平成23年度天台宗岡山教区 教学布教研修会 PTA役員研修会 勝央中学校PTA講演会 玉野市ボランティア連絡協議会講演会兼夏のボランティア体験事業事前研修会 平成23年度和気町国際交流協会総会 記念講演 岡山地区安全衛生推進大会 清水建設株式会社岡山営業所 おかやまコープ虹の会総会/東日本大震災緊急医療支援活動</p>	<p>槌の会 (特活)パブリックリソースセンター 妙勝寺(日蓮宗寺院) 真言宗御室派 薬園山 長泉寺 新庄村役場 和気町社会教育課 広島県商工会青年部連合会 生活協同組合おかやまコープ 岡山市立光南台公民館 東洋英和女学院大学大学院 国際協力研究科 (特活)岡山NPOセンター 岡山県立蒜山高等学校 クラスター岡山 益野敬老会 中山中学校PTA 玉野市立八浜市民センター 東広島市三ツ城小学校PTA 天台宗岡山教区 宗務所 倉敷市私立幼稚園PTA連合会 勝央町立勝央中学校PTA 玉野市社会福祉協議会・玉野市ボランティア連絡協議会 和気町国際交流協会 災害防止協議会 おかやまコープ</p>
<p><大学講義> 5月23日 5月26日、6月2日</p>	<p>医療法学・社会福祉学 岡山大学歯学部 キャリア形成基礎講座 岡山大学教養教育グループ</p>	
<p><イベント> 4月10日、17日 5月21日 5月29日</p>	<p>東日本大震災被災者支援～チャリティコンサート 入江洋文バイオリニスト・西牧尚子ピアニスト主催 AMDA共催 AMDA国際医療情報センター設立20周年式典 AMDA主催 愛・夢コンサート One for all, All for one 愛・夢コンサート実行委員会主催 鍋倉邦子バイオリニスト</p>	
<p><その他> 5月22日～6月3日</p>	<p>研修受け入れ モンゴルより眼科医2名、検眼師1名の計3名</p>	

明治国際医療大学と連携協定



東日本大震災での医療支援協力を契機に、学校法人明治東洋医学 明治国際医療大学とAMDAが連携協定を結びました。6月17日明治国際医療大学/京都府南丹市日吉町にて。

MERCYとの連携協定



マレーシアに本部をおくMERCY代表一行が来岡し、4月23日AMDA本部にて連携協定を結びました。東日本大震災緊急救援への寄付も受けました。

AMDA 鎌倉クラブ チャリティコンサート
東日本大震災への支援

ダ・カーポと共に

元気をつくる～元気をもらう～元気を届ける



2011年
9月18日(日)
14:00 開演
(13:30 開場)

鎌倉芸術館小ホール

全席自由
前売り 2,500円
当日 2,900円

<第1部> 三国のヒロインたち
吉備の稚媛(ワカメ) 曲:根津章伶
根津章伶 菊池美冴 箏曲絃伶会
カルメン組曲 曲:ピゼー
コンセルルミエール(フルトアンパル)
長恨歌(抜粋) 詩:白楽天 曲:佐藤敏彦
佐藤敏彦 中国の名詩を詩う会

<第2部>
ダ・カーポと共に
野に咲く花のように
結婚するって本当ですか
はじめての日 ほか

お問合せ AMDA 鎌倉クラブ代表 根津伶子
TEL 0467-24-2969 携帯 090-4619-8701
E-mail nezur@kamakuranet.ne.jp

がいせん桜まつり(岡山県新庄村)で募金活動中の新庄中学校の生徒さん



書き損じハガキを集めています

書き損じハガキがありましたら、AMDAまでお寄せください。
切手と交換し、通信費として使わせて頂いています。
また、未使用テレカ、未使用切手、ハガキも集めています。

※お問い合わせは

Tel:086-252-7700 Fax:086-252-7717

■ AMDA の活動にご支援のお願い

ご寄付の際には郵便払込取扱票をご利用ください。
※郵便振替

口座番号 01250-2-40709

口座名 特定非営利活動法人アムダ

※楽天バンクからのご寄付も受け付けております。

詳しくはホームページをご覧ください。http://amda.or.jp

支援者紹介



私たちは5月に「吉備中グリーンコンサート」というチャリティコンサートを行いました。東日本大震災の報に触れ、私たちに何ができることはないだろうかと考えたことがきっかけです。美術部、野球部、合唱部にも協力をお願いし、コンサートを盛り上げて

もらいました。当日は400人の方にご来場いただき、コンサート後の募金活動では、多くの方にご協力いただきました。この募金に私たちの心も添えて、大槌中学校に届けたいと思います。

岡山市立吉備中学校 吹奏楽

..... チャリティコンサートによるご寄付



ソプラノ歌手村上彩子氏 / 旭東病院コンサート



バイオリニスト入江洋文氏、ピアニスト西牧尚子氏



2011春の叙勲で、AMDA ボランティアセンター副センター長のボランティア村野陽治さん（元日本郵政公社職員 70歳・写真右）が瑞宝双光章を受章されました。



川崎医療福祉大学保健看護学科のみなさん



順正学園 加計勇樹副理事長（左）

ボランティア紹介

◆石崎 千里さん



7月4日から10月7日まで、インターンとしてAMDAでお世話になる事になりました石崎千里と申します。現在、国連平和大学ジェンダー・平和教育学科に在籍しており、主に平和教育の研究を行っております。

AMDAが今まで実施してこられたプロジェクトは、平和教育分野においても非常に重要であり必要な要素であると感じております。平和構築を目指し、「相互扶助」の精神を基に、様々な分野におけるプロジェクトを実施してこられたAMDAでインターンとして受け入れて頂き深く感謝しております。1日も早く業務に慣れ「AMDAの一員」として活動できるよう日々努力して参ります。宜しくお願い致します。

◆ジェームズ ブッテンハイムさん

私はアメリカから来た21歳の大学4年生です。3年間日本語を勉強しました。日本に今年1月から留学していましたが、地震のため帰国させられました。しかし、アメリカに着いた後、私は日本人を手伝いたかったです。そして夏休みの間に日本に帰ることにしました。AMDAでの私の仕事は記事を翻訳してAMDAの英語のウェブサイトをアップロードするのを手伝うことです。6月末にはAMDAのスタッフと一緒に宮城県と岩手県に行きました。今後ともよろしく願います。

